

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の 今後の展開について

令和8年7月27日 基礎研究振興部会

基礎・基盤研究課

WPI事業の現状認識

- WPI拠点は、約20年の事業期間で、新たな学理の開拓とそれを我が国の強みとして基盤を開拓する拠点を形成、18拠点中9拠点がWorld Premier Statusを獲得したアカデミー拠点
- **これまでにWPI拠点から5名のノーベル賞受賞者**を輩出。昨年はiCeMS北川前拠点長、IFReC坂口前副拠点長がノーベル賞をダブル受賞
- WPIはノーベル賞級の研究を発展させる目覚ましい成果を創出

ノーベル賞受賞者とWPI拠点の関係

- 2025年ノーベル化学賞 **北川進 博士**
 - 受賞時、京都大学iCeMS特別教授・主任研究者。前拠点長
- 2025年ノーベル生理学・医学賞 **坂口志文 博士**
 - 受賞時、大阪大学IFReC特任教授・主任研究者。元副拠点長
- 2021年ノーベル化学賞 **リスト・ベンジャミン 博士**（マックスプランク石炭研究所所長）
 - 受賞時、北海道大学ICReDDの主任研究者
- 2015年ノーベル物理学賞 **梶田隆章 博士**（東京大学宇宙線研究所所長）
 - 受賞時、東京大学Kavli IPMUの主任研究者
- 2012年ノーベル生理学・医学賞 **山中伸弥 博士**（京都大学iPS細胞研究所所長）
 - 受賞時、京都大学iCeMSの主任研究者

WPI拠点の状況

○Top10%論文の割合

WPI ※1 : **約17%**

(日本※2 : 約8%)

※1 : JSPSの調査を基に、文科省にて2021年出版のデータを集計。

※2 : NISTEP「科学研究のベンチマーク2025」を基に、文科省にて2023年出版のデータを集計。

○国際共著論文の割合

WPI ※3 : **約67%**

(日本※4 : 約36%)

※3 : プロGRESSレポートより2025年出版のデータを集計。

※4 : NISTEP「科学研究のベンチマーク2025」より。2021~2023年出版の平均。

○外国人研究者の割合

WPI ※5 : **約43%**

(日本※6 : 約7%)

※5 : プロGRESSレポートより2025年度のデータを集計。

※6 : (公財) 未来工学研究所「令和6年度科学技術試験研究委託事業 研究者の交流に関する調査 報告書 —2023年度の国際研究交流状況—」より。

WPI事業における課題

本学会においていただいた御意見

- ✓ WPIとして世界に向けた発信が必要
- ✓ 先端的な研究を活かし、若手研究者・学生にワクワク感を伝えることが重要
- ✓ 拠点間などの横展開方策が必要

アカデミー拠点から挙がった、拠点の発展に向けた主な課題（拠点ヒアリングより）

- ✓ ブランディング不足（体制不備、効果測定の難しさ等）
- ✓ ファンドレイズの難しさ（専門人材不足、ノウハウ不足、費用対効果への疑問等）
- ✓ 人材不足（世界からの引き込みの難しさ、支援部門における英語対応人材不足・キャリアパスの不在等）
- ✓ 拠点間連携の難しさ（機会創出の負担、深掘りまで進まない等）
- ✓ 資金不足（円安の影響等）

上記を踏まえた、WPI事業における現状の課題

- これまでWPIに所属した研究者は多数に上り世界中で活躍しているなど、**潜在的価値（アセット）が蓄積**されているが、その全容が把握されておらず、WPI横断でこれらを戦略的に活用することができていない
- 特にアカデミー拠点については自走化の中で、拠点それぞれにおいて成長・発展してきたため、価値が分散化、**本来WPI全体として得られる相乗効果に繋がっていない**

➡ 潜在価値の逸失

WPI事業における課題への対応策

○ WPIの持つ潜在的価値を逸失しているという現状の課題への対応策として、**アカデミー拠点を含めたWPI拠点が一体となった横断的な取組**が必要

- (例) ● 世界中で活躍しているWPI関係者の可視化を通じた国際頭脳循環によるWPI拠点の研究力向上
- 発信力のあるメディア等との連携・クラウドファンディングの実施等を通じた社会からの幅広い応援の獲得による拠点運営の安定化 等

➡ **いずれもWPIとしての認知向上が起点**

(参考) **ベンチマーク機関の例：「Max Planck」 マックス・プランク協会/マックス・プランク研究所**

- ・ マックス・プランク協会はドイツの非営利学術団体。
- ・ 協会傘下に85のマックス・プランク研究所があり、ドイツ国内に分散配置。
- ・ 主に連邦政府及び各州政府からの公的資金によって運営され、個々の研究所が高い自律性を保持。
- ・ 単なる研究所の集合体ではなく、「ドイツ科学のフラッグシップ」として国際的に認知されており、世界有数の研究機関としての評判・ブランドを確立。

→ **分散ガバナンス×統合ブランド**



出典：MPG (CC BY 4.0)

○アウトリーチについて、協会及び各研究所において様々なアウトリーチの取組を実施

- ・年次総会：協会主催で毎年開催、研究者、経営者、行政関係者等が集まり、メダルの授与や科学政策に関する討論会等を実施
- ・人気YouTuberとのコラボ：共同制作した動画を「WISSEN WAS」としてシリーズ化。評価研究を実施し、結果を論文として発表
- ・学校教育へのコンテンツ提供：学校向けポータルサイトや学習用コンテンツの作成・教員向けの研修等を実施
- ・ガールズデー・シニアデーへの参画：女性の理工系への進学促進を目的として、小学校～高校の女子向けに施設見学や女性研究者との対話を実施するガールズデー（ドイツ全土で毎年開催）や、高齢者の暮らしや高齢化社会をテーマとしたイベントを実施するシニアデー（ドイツ全土で3年毎に開催）等に参画

人材・資金など多くの観点において国際競争が激化する中、卓越した研究成果そのものに加えて、それを**戦略的に伝え、認知を高め、その価値にふさわしい評価に繋げることが不可欠**

WPIの今後の展開について（案）

- 各拠点のこれまでの卓越した活動の集積による**潜在的価値を活用するため**、WPI全体のブランディングを戦略的にブーストする**体制を強化**
- 各拠点と連携して、**WPIとしての認知向上に係るあらゆる施策を実施**



WPIブランディングに向けた取組(例)

- WPI-Alumniの設立
- WPI-Award創設
- 国際会議等でのWPIの発信
- メディア等との連携
- クラウドファンディング等の実施
- ファンドレイジング
- SU創出支援・人材育成支援

これらにより、**WPI事業の政策的効果を更に拡充する**

- ✓ **卓越した研究成果による国際的地位の確立**
- ✓ **多様で優秀な研究者が集まる国際的な研究環境**
- ✓ **次代を先導する人材の国際頭脳循環の促進**

⇒ **我が国トップレベル研究拠点のプレゼンス向上による研究・運営両面の好循環**

成長・発展計画について

背景・課題

- ✓ 10年のWPI補助支援のあと、持続的に補助支援中と同規模以上に拠点を維持・成長させることは容易ではない。10年目前後で、優れた海外研究者、専門人材等を継続的に確保できない場合があり、**10年かけて培ってきた「拠点としての価値」の一時的な低下**が見られる。

ねらい

拠点の成長モデルの構築

… 長期的活動を可能とする**予見性を高める**
拠点を成長・発展していく**資金の好循環モデル**を構築

国費投入の価値最大化

… 「拠点としての価値」の**一時的低下を回避**

知的アセットの価値化

… 基礎研究の**知的アセット（有形・無形の知的資産）**
の適切な**価値化**

R9年度に向けて

- R8年度にIRCIN、NanoLSIの2拠点が10年目を迎える
- 両拠点は**成長・発展計画**を提出、R7年度にWPIプログラム委員会による審査を経て**承認済**

拠点の成長・発展モデル（イメージ）

